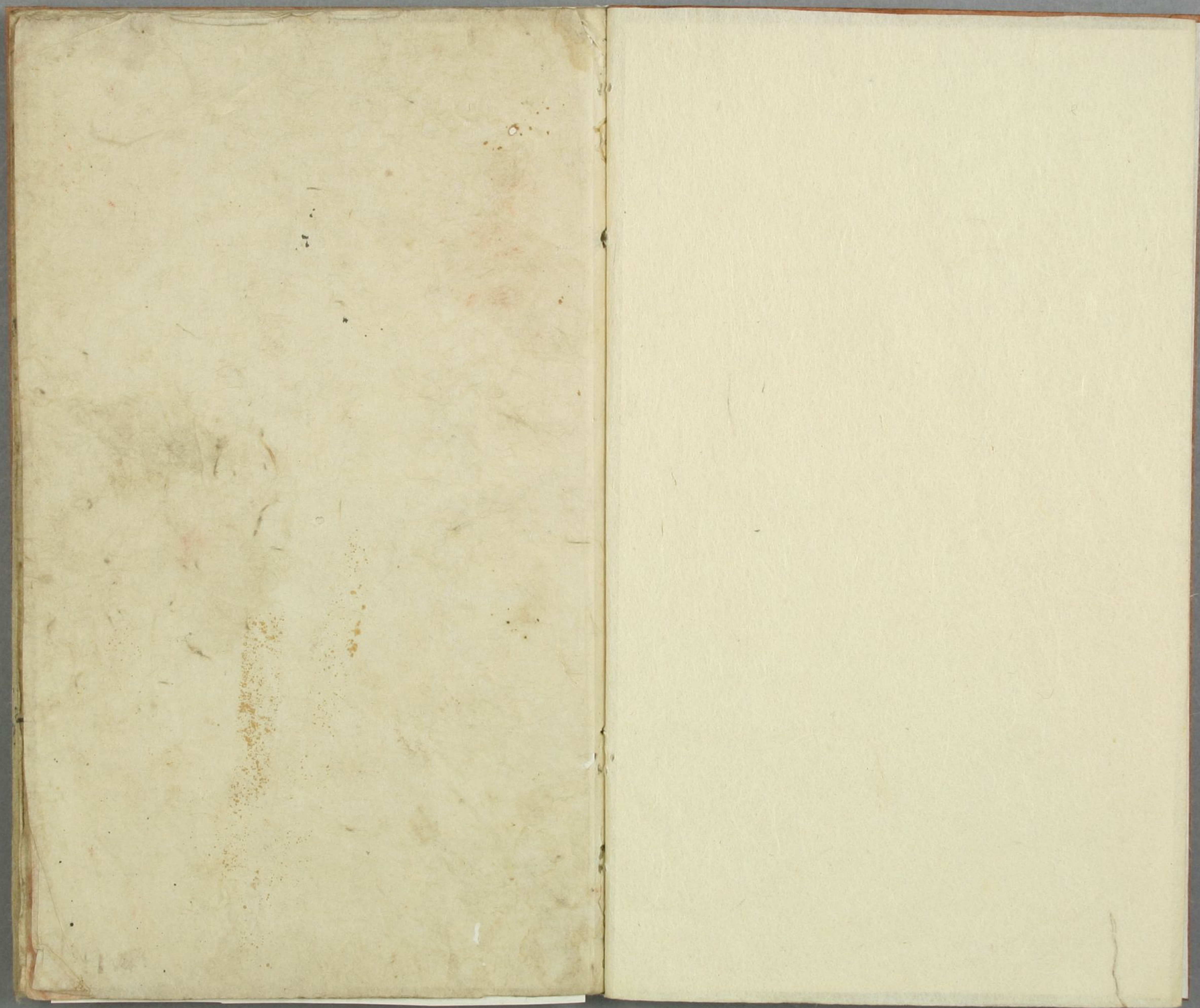


明和五、六忘歲旦

戊子歲旦







明和五戊子

元旦



あつと解ふいとよまの朝

六窓

薄代並おのゝまむつと月

五陵

トリ行地まありまはあひ合て

前江

ナ



青陽

暮の川中をさすはあゆむかたし東
 ちとくし惠るく十日のそめ
 ちを亭あさむよ明くゆ馬
 ちを川やあさりと岩の一滴
 ち一色の郭を免くはゆり
 ち書きくもあつちをちのま
 ちのち中をこれちより乃流波山
 丹砂 前江 春眠 桃林 故一 五陵 歸郷

仙人の印しはくはく海舟
 天乃丘北をくちくち福舟
 ちの矢乃耐神してるむ表の表
 ち川をくち移のね風乃ち扇
 ちのち乃ちをくちや一文字
 ち深ゆやくはく板のいとち
 ちくちハ板赤きくちくち
 ち園中先きくち上は菜
 燕舎 稻波 梧栖 五明 玉翠 億藏 窓裏 錦水

まつ川や夏のみ水 雪丸
 松子松子松子松子 松羅
 まつ川や夏のみ水 豊肆下格
 つくや松の葉色のま川口 泉和
 塊の角も 東里
 油うま田畑つるま松葉さ 箕丈
 まつ川乃名子つるま松葉さ 砧子
 蒼やや一葉はる油うま 野窓

鶉の啼負はれやとの口乃る先 佐倉窓下
 林の代や倍もつるま松葉さ 梧鳳
 えりや奏のやうに鶉の舞 養挑
 空ふらふ新りつるま松葉さ 畔路
 まつ川乃名子つるま松葉さ 花梁
 まつ川乃名子つるま松葉さ 輕我
 えりや松の葉色のま川口 雪紅
 善水やよよ乃松の海女油 魚園

十
 三

子福者七月まむのまゝとく先
 づゝ、毎々ふとあ乃松やみみり
 もれううー朝も何うもははは勝
 上へとくいゝとくかうーさ報孝小
 菫草の風よほりまの皴
 秋露 南枝 似馬 麻吏 曙山

除幸

神子とさしハ竹猫の人と除水乃門
 乃世やも源子申ぬ鏡磨
 蝶のりお世於人何り投以中
 中一活中陸子心のま帆行帆
 まゝとくや皆六座乃小家くら
 はまゝや汝の境おまてくー
 家とくらいよ風の川沖をぬ
 丹砂 前江 春眠 桃林 故一 五度 歸郷

雲のハミミ梅とらう除水の言
道静おく、まおめらうら
りやの孫やうきけり私月むや吉ひらり
此のさ由後や編子や解りら
破壁くえとと者こ年ワミ
茶の熱地とまおえれハ師をい
市人やけり〜えゆるハ無り
後うけよのハまきう老かう

燕舎
稻波
梧栖
五明
玉翠
億藏
窓裏
錦衣

炭信々ぬハ此の屋花ふ
ま道とソふ名中けり乃重と産
是中を鞠ヲ習ん此のこ
わら子も積も海〜石能
追風の糸を帳より師をい
孫抱てそやま〜のそ〜
聖ま〜の言よくむや由の梅

雷ハ
松羅
豊肆
泉和
東里
篁丈
砧子

中一忘つそくうとそくうか 野窓

汐手十層少く川の古くしり 窓下

八百菊あつとも同の藤もひ 梧風

さよふも甲ゆ人も世一善ぬ 養桃

戸西のハ魚り甚事んて一を 畔路

大寺も小寺も世一の泊るゆ 花梁

至為中庭く汐子乃つそくうさ 輕我

阿才も心むを晒や世一乃る 雲

牛烟とちうく車や世一の坂 魚剛

つとをを精んつ起り老姑坂 秋露

海山を筑へ着ゆや乃市 南枝

世の善むより苗や世一の的 似馬

古年乃よん換かり豊のそり 麻衣

菊屋も正月雲と世一乃市 曙山

年波の波うり言や解の若 春耳

唐詩を川むくひま
のまじりの幅庭を懐て
この一あれ果と餘む

此一乃市すも松風秋のふり

素丸

命松うあふへくや條町一終

宗瑞

納言の旭まあむじや大毎口

斑象

歳宴

待ま乃うら知なり除夜の境

魚收

此一法や今ふゆもあ松乃言

連丈

様ちんて人も此一ぬ月あれ

完車更
希品

舞さや豆蔲志まふ言あやと

飛鯨更
子中

筑波根の責あうりや一の市

珪山

虎溪くくふえまあうりまをい

落梅

白子乃猫と意まは此一の奥

雲外

秋の節り乃こふさく那 婆心

昔は吉小ゆきくくきりくハ 兼太

田一枚きふてむくく隠る 六窓

歳末

橘り暑のきとすじきかきま	雪中菴
いさばき流やうぬよの浪	嵐亭
七尋りハ神のきかハ解むら	人左
浴流のきよむくくや中一の梅	周竹
古曆きよてきくくくおかく	雷堂
ゆく水のせとくきくくや美子の	盤古
あめくくくあめはきくく一年忘	吐月

ナ

煙火より一煙をくちのん免
吾道の狭き乃言や此の梅

阿音
乙兒

守歳

松竹梅の法は此とくく

橘菴

六窓

ふん日和只此のきー松柏

